日本小売業協会の海外活動

ブラジル・サンパウロ日本人商工会議所を訪問

株式会社アテナ 会長　渡邊順彦

日本小売業協会のブラジル・ドバイの商業施設視察会に参加しました。

２カ国のうち、特にブラジルは今年のワールドカップ、2016年のオリンピック・パラリンピックという２大スポーツ・イベントを控えています。そして、リオデジャネイロやサンパウロの大規模なハイパーマーケットなど商業施設を見学し、ブラジル経済の現況を体感しました。

また、サンパウロの日本人商工会議所や総領事館を訪問し、現地日系企業の活動ぶりも視察しました。たまたま、私の会社では世界の国旗や国勢情報を丹念に調べてデータベース化したコンテンツがあります。そして、北京五輪では表彰セレモニーの運営などコンサルタント業務を受託したことを思い出しました。ブラジル五輪でも大会の成功に向けて、国旗掲揚セレモニーなどでご協力できればと思いました。

長旅でしたが、団員一同元気で無事帰国しました。日本小売業協会としては、新興国の中でもブラジルは初の視察訪問でありましたが、関係者の皆様には現地小売業協会をはじめ、また、サンパウロ日本人商工会議所には親切にしていただき、お世話になりました。御礼申し上げます。

アジア太平洋小売業協会専務理事会議

6月9日～11日：クアラルンプール

去る６月９日から11日にかけて、マレーシア・クアラルンプールでFAPRA（アジア太平洋小売業協会連合会）の専務理事会議が開催された。

９カ国の専務理事らが出席し来年の第17回APRCE（アジア太平洋小売業大会）マニラ会議（フィリピン10月開催）など当面する幾つかの課題を協議した。

日本小売業協会からは岡部専務理事、近江・緒方国際担当部長の３名が出席し、日本側の考えなどを積極的に発言した。

フィリピン小売業協会からは来年10月のマニラ大会の準備状況等が報告された。それによると、フィリピンは、GDP成長率も堅調で、中間所得層の増加などから国内の小売市場は拡大している。多くのショッピングモールがマニラなど主要都市に誕生し、経済は活況を呈している。日本のコンビニエンスストアの進出計画もここにきて加速している。多くの観光地もあり日本から多くの大会参加者が期待されている。

また、会議ではFAPRA加盟国17協会のさらなる交流連携の強化に向けて規約の見直しなどを協議した。これらの議題は９月にマニラで開催されるFAPRA加盟国代表者会議（日本代表：土方日本小売業協会会長）で決議することになっている。

マレーシアにおける日系小売業の活動

クアラルンプール

専務理事会議が開催されたクアラルンプールは、3000万人の人口を有するマレーシアの首都。同国は１人当たりGDPが平均１0000ドルに達し、すでに中進国である。日本の企業の進出も日本人商工会議所の法人会員は582社であり、日本の有力な投資先となっている。

日系小売では、イオンや伊勢丹が中心街のKLCCや新興住宅地のショッピングモールに出店しており、中間所得層以上の顧客でにぎわっていた。

また、最近日本でも関心が高まっている「ハラル」というイスラム法にのっとった認証マークがほとんどの食品に明示されていた。マレーシアはこの認証についても先進国であり、日本小売業協会では９月に視察会を予定している。